

## 米国の景気安定と利下げ継続が株価底固めの最低条件に

- 14日のNYダウは急落、15日の日本株も大幅安で幕開け
- 世界経済拡大シナリオ維持には米国の安定が不可欠に
- 市場の期待通り、FRBが利下げ継続を鮮明にするか注目

## ■ 対中関税延期で生じた安堵感は一夜で消失

14日に米国株が急落（図1）、その影響は15日の日本株にも波及しています。13日に米国が対中関税第4弾の一部発動延期を決定し、市場も一旦安堵しましたが、14日の中国、ユーロ圏景気指標が揃って低調だった点に加え、米景気後退のシグナルとされる長短国債金利逆転（2年＞10年）が一時発生し、再び不安があおられた印象です。

## ■ 米景気安定と利下げ継続への確信深まるか

株価底固めには、まず中国・欧州の景気が低迷するなか米国の景気安定が必須条件といえます（図2）。また足元の株安が、7月末のFOMC（連邦公開市場委員会）が利下げに慎重と受け止められたことが契機となった点も考慮すると、来週22-24日のジャクソンホール会合や9月17-18日FOMCで利下げ継続への強い姿勢が確認出来るまで、市場は我慢の展開を強いられそうです（図3）。（瀧澤）

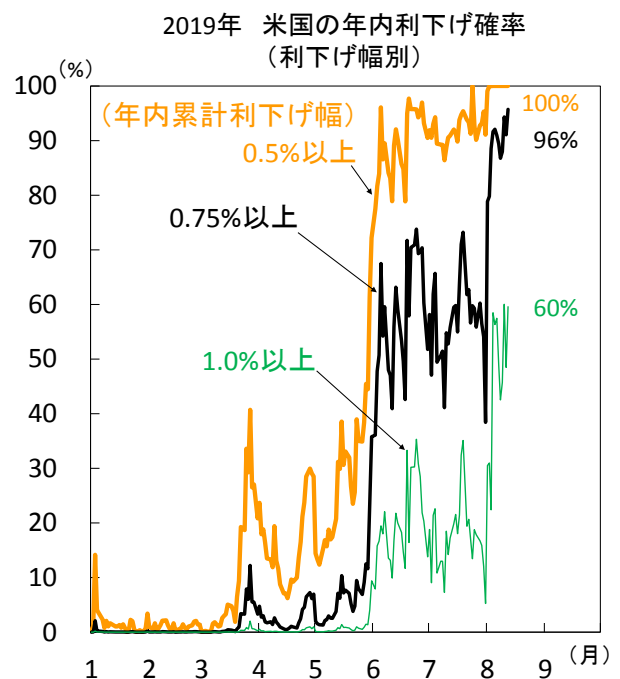
【図1】再び調整局面を迎えた米国株式



注) 相場の転換点となった日付と値を表記。  
直近値は2019年8月14日時点。

出所) Bloombergより当社経済調査室作成

【図3】利下げを催促する市場の期待にFRBは応えるか？

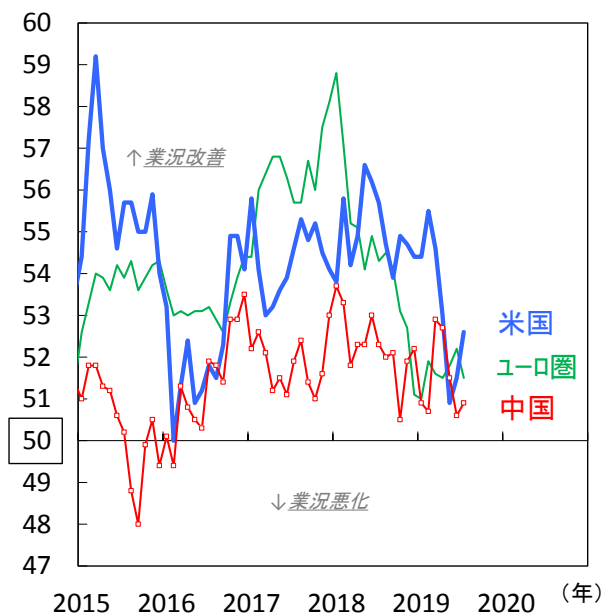


注) OIS（翌日物金利スワップ）を元にBloombergが算出した確率。  
7月31日に0.25%利下げを実施したため、例えば0.5%以上は年内あと0.25%以上の利下げが実施されるということを表す。直近値は8月14日時点。

出所) Bloombergより当社経済調査室作成

【図2】世界経済の拡大持続に向け、米国が頼みの綱

## 主要国 総合PMI



注) 製造業とサービス業の合成指数。50が業況改善・悪化の境目。  
直近値は2019年7月時点。

出所) マークイットより当社経済調査室作成

## 本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。

## 本資料中で使用している指数について

Markit Economics Limitedの知的財産権およびその他の一切の権利はMarkit Economics Limitedに帰属します。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会